

2014年度第2号のレター発行となります。本号では、先般9月13日(土)に高崎経済大学にて開催されました第38回支部例会(兼東北支部合同大会)での発表要旨、並びに、12月6日(土)に開催を予定しております第39回支部例会(兼関西・中部支部合同大会)と30周年記念論集の刊行についてのご案内を掲載致します。

日本比較文化学会関東支部事務局長 郭 潔蓉

◆第38回 関東支部研究例会兼東北支部合同大会 ご報告◆

2014年9月29日(土)、高崎経済大学7号館764/765教室において第38回関東支部例会(兼東北支部合同大会)が開催されました。当日は、7名の会員による研究発表が行われ、多岐に亘る研究に触れることのできる大変実りある例会となりました。終了後、高崎駅近くにて懇親会を行い、当日の発表に関する意見交換が行われたと同時に両支部の親睦を深めました。

以下、例会での研究発表の要旨および総会のご報告を致します。

◆開会の挨拶: 東北支部長 佐藤和博 (弘前学院大学)

* 発表要旨: 発表順に *

1. ch 音の日本語、古語と方言に見られる意味志向的傾向

—ch 音から検証するマイナー的意味と言語学上の多層性・日本語の意味志向と音の選択—

無所属詩人・語彙研究者
西村純

日本語の音列と意味志向のある種の特異なバイアスのかかったマッチングは以前からずっと気になっていた。ある音列に例えばポジティブ(肯定的)かネガティブ(否定的)か、メジャー(大きなスケール)かマイナー(小さなスケール)かの意味を多く使用頻度が高く設定されているとすれば、フェルディナンド・ソシュールが『一般言語学講義』で示した恣意性 *arbitrariness* は必ずしも全ての言語に於いてではなく、日本語の様な音感や音感性と意味をマッチさせようとする志向の言語では当て嵌らない事もある、と結論し得る。其処で私は本発表では ch 音列の語彙に拘り、まず国語、そして方言、琉球語やアイヌ語も検証する形で意味志向の傾向を探る事とした。

既にマイナーミーニングが隣接する(つ,tsu)音列より多く見出せる事は国語では明らかである。では方言ではどうだろう? 方言ではエリア毎に異なった音選択的感性がある事も分かる。エリアに拠ってはマイナーよりネガティブの意味の語彙が多く集中する事もあるし、(ち)より(つ)にマイナーの意味が多く集中する事もある。だがこれは果たして日本語でのみの事なのか、も問題となる。其処でハングル等とも対比させてみる。

2. 越境する Homemaker—ニューヨーク、アフリカ、1920年代

愛知教育大学 教育創造開発機構・研究員
長谷川詩織

本報告は、1920年代の合衆国の経済的・社会的・心理的緊張に焦点を当てることで、探検家オサ・ジョンソン

のアフリカにおける家庭づくりの含意を考察するものである。オサは、1924年から1927年にかけて、ポメロイ・イーストマン・エークリー探検隊の一員としてアフリカに滞在し、狩猟や映画撮影のみならず家事の方法を様々に発信した。家事実践は、主婦(Homemaker)だけではなく、制約的な環境下で行う方法を伝授する、家事実演者としての位相をオサに付与した。オサがどのような女性像を代行したのか、彼女自身はどのような精神性を持っていたのかを、「狂騒の1920年代」と総称される時代的潮流を視野に入れながら考察することが本報告の狙いである。まず、オサが登場する映画『シンバ』(1928)の興業的成功の背景として、ハリウッド映画産業を支えるスター・システム形成プロセスに注目し、続いて、被写体としてのオサの振る舞いに光を当て、フラッパーとの重なり合いを検討する。これらを踏まえて、ニューヨーク滞在時に感じた彼女の「違和感」に着目、マルコム・カウリーが示すロストジェネレーションの行動様式と比較しながら、オサを1920年代の歴史的な文脈のなかに定位させる。

3. 小学生における静的バランス機能のカンボジアと日本の比較

—小学校3、4年生における閉眼片足立ちの記録から—

東京未来大学 こども心理学部助教
真家英俊

日本において、発育期における体力・運動能力の発達は、単にスポーツの競技力向上のみならず、健康の維持・増進やケガの予防など健康的な生活をおくるためにも重要な要素であるとの考えが浸透してきている。その発育期において、姿勢制御に関与する機能が運動発達に影響を及ぼすことが指摘されていることから、姿勢と運動は別々に制御されるわけではなく、緊密に統合された動的な安定状態として発現するものと考えられる。

カンボジアでは、1970年代に続いた内戦によって、施設、人材、教材などの教育システムの多くが破壊され、適切な健康教育を保証するうえで重要な体育科は、未だ確実な授業がおこなわれるまでに至っていないと言える。

本研究では、小学校3、4年生の男女児童を対象に閉眼片足立ちの時間を測定し、日本の小学生と比較することで、カンボジアの小学生における静的バランス機能の発達について評価することを目的とした。その結果、3、4年生の男女いずれにおいても閉眼片足立ちの時間は日本の小学生との間に有意な差は認められなかったことから、カンボジアの小学生における静的バランス機能の発達は日本の小学生と同程度であることが示唆された。

4. ICTを活用した印象評価をサポートするツールの開発

湘北短期大学 専任講師・他
森崎巧一

近年、芸術作品やデザインなどを対象に、印象などの人の感性情報を定量的に調査し分析する研究が増えている。感性情報を探るための代表的な方法の一つに印象評価があるが、心理学や統計学、情報学などの複数の専門領域の知識と経験が要求されるため、初学者にとって必ずしも容易ではない。そこで本研究は、印象評価への取り組みを容易にするため、これをサポートするツールの開発を行った。一般に広く普及しているMicrosoft Officeを採用し、マクロ作成用言語(VBA)を用いて「印象評価サポートツール(Excel版)」を制作した。このツールは、印象情報を調査するためのツール「印象評価アンケートツール」、印象の特徴を抽出したり作品を分類したりするためのツール「印象評価データ分析ツール」、これらを適切に誘導するためのツール「印象評価ガイドシステム」によって構成されている。さらに、Excel VBAを利用できない人のために、サーバーサイドプログラムを用いて上記ツールと同様の機能をWeb上で実現する「印象評価サポートツール(Web版)」を制作した。

5. 母親の精神的健康と幼児の社会的スキルの発達との関連

高崎健康福祉大学 大学院
吉田亜矢

本研究の目的は、幼児期の子どもをもつ母親のストレス反応として精神的健康と幼児の社会的スキルの発達との関連について検討することである。二つの私立幼稚園の園児170名とその母親170名を対象とし、母親の精神的健康については気分状態とし、POMS短縮版を用い、幼児の社会的スキルの発達については幼児の社会的スキル尺度(中台・金山,2002)を用いて調査を行った。調査紙の配布数は204、回収数は197(96.6%)、有効回答数は170(83.3%)であった。相関分析を行った結果、母親の緊張-不安と幼児の自己統制スキルに負の相関、母親の怒り-敵意と幼児の自己統制スキルに負の相関、母親の怒り-敵意と幼児の不注意多動行動、攻撃行動に正の相関、母親の疲労と幼児の攻撃行動に正の相関、母親の混乱と幼児の主張スキル、自己統制スキルに負の相関、母親の混乱と幼児の不注意多動行動と攻撃行動に正の相関が認められた。母親のネガティブな気分状態と幼児の社会的スキルの乏しさや問題行動は関係していることが示唆された。今後、調査対象者を増やすとともに分類や分析方法を工夫し検討を重ねていきたい。

6. 差異の共同体と私の唯一性-

-アレント政治哲学における行為と言論について-

弘前大学人 文学部講師
横地徳広

『人間の条件』(1958年)を記したアレントのライト・モチーフの一つは、次のような問いであったように思われる。“ヒトラーの暴走を阻止しえたとすれば、それは、どのようなひとであり、どのような共同体であったのか?”

この問いにアレントが与えた答えを確かめるため、本発表では、彼女が1959年に行なったドイツ講演「レッシング考: 暗い時代の人間性」を手がかりに「行為(action / Handeln)」と「言論(speech / Sprechen)」という『人間の条件』の鍵概念を読み解き、その内実を確かめた。つまり、行為と言論によって、人びとは自分たちの自由、平等、多様性を守る政治に参加し、これらに共同的意味を与える対話を通じて、一人ひとり「人間的」になり、その世界が「人間的」になっていく。「複数の人びと、つまり、この世界に暮らし移動し行為する人びとが有意なことを経験できるのは、その人びとが互いに語り合って互いを意味づけ合い、自分に語りかけて自分を意味づけているからに他ならない」(『人間の条件』)。

このような行為と言論のモデルとしてアレントに見出されたのは、古代ギリシアのポリスである。そこでの政治は、市民にとって誰かがやればよい他人事ではなかった。このことに注目して彼女が言いたかったのは、次のことである。すなわち、ありふれた住民にすぎない一人ひとりが、全体主義的な権力の暴走を黙認するのでも、それに黙従するのでもなく、自分の行為と言論を通じて自他の差異のあいだに共同体を生起せしめ、そうして全体主義の暴力を止めることができたはずであった。このとき同時に、一人ひとりが自分の行為と言論をお互いで分かちもつなか、私の「物語りのアイデンティティ(narrative identity)」が織りあげられ、ここに私の〈唯一性〉が現われる。

ヒトラーの暴走を阻止しえたとすれば、それは、とりかえのきかない物語りのアイデンティティという織物である私と、それぞれがこうした「私」である一人ひとりの政治的共同によって生起せしめられた〈差異の共同体〉であった。

7. 津軽為信と高山右近

八戸学院大学 教授
木鎌耕一郎

津軽為信は津軽藩の初代領主である。為信はもともと南部氏の一族であったが、御家騒動の折に津軽地方を南部氏から独立させた津軽藩の初代である。1590(天正18)年の奥州仕置で、南部氏に安堵された七郡の中に津軽領は除かれ、為信は南部氏の被官ではなく一大名として認知された。1596(慶長元)年のイエズス会年報では、為信は大坂で修道士から信仰の手ほどきを受け、説教を聞き、洗礼を望んでいたとされる。しかし彼は、11歳になる三男信牧に洗礼を受けさせたものの、自らは受洗しなかった。また1607(慶長12)年の年報では、長男信建が自ら司祭を訪ね受洗した後に死を迎えたことが伝えられている。このことから津軽氏父子をキリシタン大名に数える文献が散見されるが、それらの記述は基本的に上記の二つの年報に依拠している。その中で、石戸谷正司「津軽諸侯とキリシタン」は、1590(天正19)年に来日したイエズス会日本巡察使ヴァリニャーノがインド副王の使節として天正遣欧少年使節を伴い、都で秀吉と謁見したことを報告するフロイスによる年報の記述に、自らヴァリニャーノを訪問した三人の人物がおり、そのうちの一人「奥州の国の大名」とされていることを指摘し、この人物が津軽為信である可能性を示唆した。その年報には、「奥州の大名」は「(高山)右近殿を通じて我らの説教を聞くことを望むようになった」と記されている。もしこの人物が津軽為信であれば、為信のキリスト教接近の契機に、これまで繋がりが見出されなかった著名なキリシタン大名高山右近の存在が浮かび上がってくる。本発表では、この仮説について、高山右近との時間的空間的接点をもとに検証したい。

◆閉会の挨拶: 関東支部長 近藤俊明(東京未来大学)

* 閉会后、懇親会を開催した。

* 連絡事項 *

● 次回の「関東支部第39回例会」は関西・中部の両支部との合同例会として、次の通り開催致します。

1. 開催日: 2014年12月6日(土)
2. 場 所: 東京未来大学
3. 時 間: 13時~18時(予定)
4. 発表希望締切: 2014年11月7日(金)(厳守)(学会HP上に掲載し、会場場所などを広報するため)
但し、上記締切日は「発表者氏名、所属、発表題目のみで構いません。要旨は、11月21日までに事務局にメールにてご送付願います。
発表予定会員はメールにて事務局(郭:kaku-ryo@tokyomirai.ac.jp)までご連絡ください。

● 「関東支部創設30周年記念論集」について(再掲)

お陰さまで、関東支部は2015年6月に創設30周年目を迎える運びとなりました。支部では「創設30周年記念論集」の刊行を企画しております。論文集の刊行予定は2016年1月、論文原稿の締切は2015年9月末日を予定しております。応募要領等詳細につきましては、追って関東支部のホームページに掲載致しますので、ご承知置きのほどお願い申し上げます。